

福井県立武道館(1/2)

が武道老いも若きも一緒に。

所在地	福井市三ツ屋町8-1-1		
設置年月日	平成元年6月18日		
施設の種類	スポーツ施設	施設管理主体	県
設置の目的	武道の振興を図り、県民の心身の健全な発達に寄与する。		
概要 (構造、面積、主な機能)	鉄骨鉄筋コンクリート造、地上3階、延べ床面積13,987㎡ 柔道、剣道、弓道、相撲のそれぞれ独立した専用公式試合場を有し、加えて多種目競技場は空手、なぎなた、銃剣道等の公式試合場として使用できます。		
職員数	館長(非常勤)1名 職員7名 アルバイト1名 計9名		

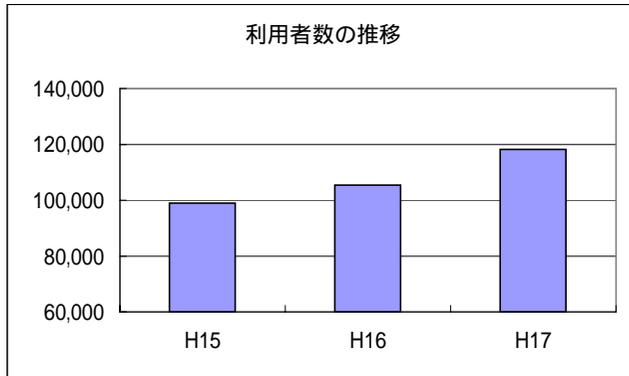
利用状況等

	H15	H16	H17
利用者数(人)	99,010	105,403	118,227
武道学園受講者数(人)	961	990	974
大会・審査会使用回数(回)	215	246	280

利用者負担(利用料金)等

使用料	学生(専用せず)	60円
	一般(専用せず)	140円
	剣道大道場(専用)(一般)	18,000円

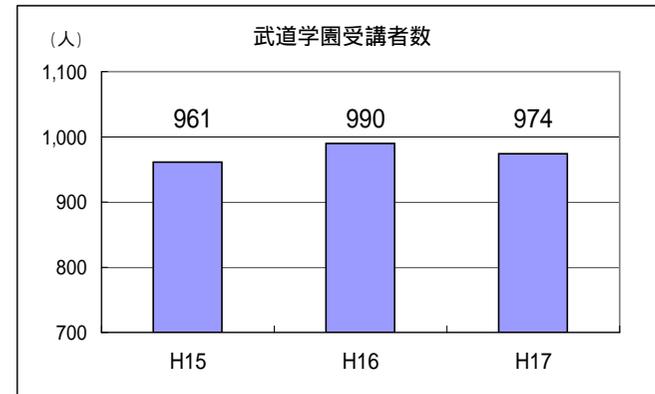
利用者数の推移



平成17年度の特徴について

事業実績	<p>大会・審査会の実施など、年間約11万人(前年比12%増)の利用者がありました。</p> <p>武道学園は、平成17年度には974人(前期496人、後期478人)の受講があり、県民の健康増進と青少年の健全育成に寄与しました。</p> <p>研修事業を実施し、指導者育成、青少年の育成、競技力向上に寄与しました。</p> <p>機関紙「武道」の発行(平成17年7月)や武道館のホームページ更新により、武道および武道館に関する情報を提供しました。</p> <p>平成16年度に引き続き、県内の武道人口を調査し、小学生・中学生・高校生・一般の各競技の武道愛好家数を把握しました。(17年8月)</p> <p>武道館運営委員会(年2回、平成17年6月、平成18年2月)を開催し、武道関係団体から意見を聞き、武道館の運営改善に役立てるとともに、公立武道館協議会を通じて、県内公立武道館との連携を図り、武道振興のための支援を行いました。</p> <p>利用案内パンフレットの作成、館内での施設利用状況や利用方法の掲示、アンケート等の実施を行い、より利用しやすく、ニーズにあった施設にするための改善に努めました。</p>
------	---

武道学園受講者数



武道学園
(空手道教室)



利用状況の推移

日本でも指折りの総合的な武道館として、全国大会や北信越大会など大規模な大会から、練習の場としての個人利用まで、年間約11万人、開館以来延べ154万人が利用しています。17年度は、対前年比12%の伸びとなっています。

また、県外の学校や武道団体等の合宿も多数行われ、福井県のイメージアップに役立っています。

福井県立武道館(2/2)

行政コスト計算書(平成17年度)

(単位 千円)

	総額	構成比	前年比
人にかかるコスト	人件費	72,170	32.2%
	退職給与引当金繰入	210	0.1%
	計	72,380	32.3%
物にかかるコスト	物件費	56,358	25.2%
	維持補修費	2,945	1.3%
	減価償却費	92,279	41.2%
	計	151,582	67.7%
その他	公債費(利子)	0	0.0%
	その他	22	0.0%
	計	22	0.0%
合計	223,984	100.0%	101.6%

バランスシート(平成18年3月31日現在)

(単位 千円)

借方			貸方		
資産		前年比	負債		前年比
有形固定資産	4,826,588	98.1%	固定負債	55,230	100.4%
投資等	0	-	流動負債	0	-
流動資産	0	-	正味資産	4,771,358	98.1%
計	4,826,588	98.1%	計	4,826,588	98.1%

武道学園
(柔道教室)



施設の特徴

柔道、剣道、弓道、相撲については、それぞれ独立した専用公式試合場を有し、本県の武道振興の拠点となっています。
 武道学園(柔道・剣道・弓道・空手道・銃剣道・なぎなた・相撲の各教室)は、武道七道を通じて県民の健康増進や青少年の健全育成はもとより、日本文化・伝統を体験できる場、心の教育の場として貴重な存在となっています。
 指導者資質向上研修会、地方青少年武道錬成大会などで中央の講師を招き、県内の武道の普及振興に寄与しています。

今後の課題

当館が建設されてから17年が経過していることから、老朽化が進み、施設・設備の修繕箇所が多くなってきています。
 利用者数の増加や、夏季・冬季の気候条件によって管理運営費が大きく左右されます。

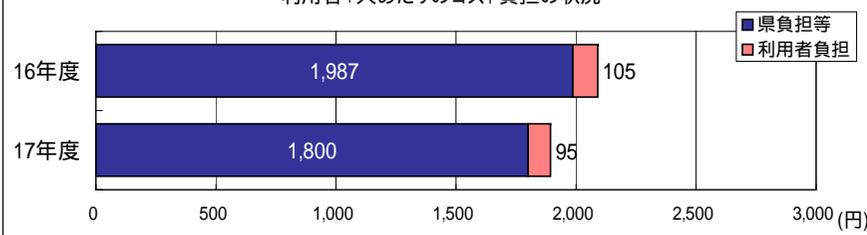
(単位 千円)

収入				(前年比)
収入	利用料等収入	11,248	5.0%	101.7%
	その他収入	552	0.3%	103.8%
	一般財源	212,184	94.7%	101.6%

(前年比)

利用料等収入計	11,248,000 円	101.7%
利用者1人あたり平均利用料	95 円	90.5%
利用者1人あたりコスト	1,895 円	90.6%

利用者1人あたりのコスト負担の状況



武道学園
(剣道教室)



バランスシート、行政コスト計算書の特徴

行政コスト計算書の特徴は、物にかかるコストの減価償却費の割合(41.2%)が高くなっています。
 また、バランスシートの特徴は、有形固定資産のうち、建物が4,336,857千円と89.9%を占めています。

平成17年度は、物件費が前年比107.6%と多くなっていますが、この原因は、利用者数が前年比112.2%と多くなり、これにかかる経費(燃料費・光熱水費など)が増えたことによるものです。

平成17年度の利用者1人あたりコストは、前年比90.6%で減少しています。

今後の事業方針、取り組み内容

休館日の柔軟な対応、開館時間の変更など、県民のニーズに合った利用しやすい施設づくりをめざします。
 アンケート等により、利用者の意見を吸収し、取り入れられる体制をさらに充実させ、県民の利便性の向上を図ります。
 県の武道の情報発信基地として、武道に関する情報収集・提供、武道に関する調査・研究をすることにより、県民に武道を理解してもらうとともに、武道人口の増加を図ります。
 各武道団体と連携し、武道団体のネットワークづくりや武道に関する相談などへの対応体制を充実していきます。
 武道館ホームページをさらに充実し、県民がさらに武道に関心をもってもらえる内容にしていきます。